

電気通信大学 平成16年度シラバス

授業科目名	力学第二		
英文授業科目名	Mechanics II		
開講年度	2004年度	開講年次	1年次
開講学期	2学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-国際科目-専門基礎科目		
開講学科・専攻	量子・物質工学科		
担当教官名	尾関 之康 (F1)、山崎 尚 (F2)		
居室	東6-534 (尾関)、東6-428 (山崎)		

公開E-Mail	授業関連Webページ
尾関 山崎	

【主題および達成目標】
<p>(a) 主題力学は自然科学の中で根幹をなす分野の一つである。したがって、これから物理学、化学を学ぶ者にとって習得しておかなければならない学問分野である。力学第二においては、力学第一で習得した、ニュートンの法則で一つの質点の運動を記述するのに用いた手法を、質点が二つ以上ある系、剛体、弾性体、および流体に応用する。(b) 達成目標力学第一で習得した微分方程式の形で表わされたニュートンの法則を、質点系、剛体、弾性体および流体に応用し、その運動方程式を解くことで、それぞれの系の運動や物性の基礎を理解する。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
力学第一

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
微分積分学第一、線形代数学第一

【教科書等】
教科書： 伊東敏雄著 「な－るほど！の力学」 (学術図書)

電気通信大学 平成16年度シラバス

【授業内容とその進め方】

(a) 授業内容第1回?第3回 質点系の力学第4回?第7回 剛体の運動第8回 予備第9回?第11回 弾性体の静力学第12回?第14回 流体の力学第15回 予備 (b) 授業の進め方力学第一で習得した運動を表すニュートンの法則を発展させていく。したがって、力学第一と同様に自分自身で問題を解くことが必要である。同時に開講される力学第二演習を受講することを必須とする。毎週、講義で行った内容を演習の時間に問題を解き、その理解を深める。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

(a) 評価方法中間試験、期末試験および力学第二演習の結果を総合して、力学第二と同演習両方の成績とする。成績評価 = (演習の評価点 × 30%) + (中間試験の評価点 × 35%) + (期末試験の評価点 × 35%) (b) 以下の到達レベルをもって合格最低基準とする上記成績評価60点

【オフィスアワー：授業相談】

詳細は授業時に説明する。

【学生へのメッセージ】

一学期に開講される力学第一と一体になって初等力学の体系となる。力学第一のシラバスも参照されたい。力学は基礎的事項からの積み重ねにより習得できるので、同時期に開講される演習並びに自宅での復習により、毎回の講義の理解を完全なものにし、次の講義に臨んで欲しい。講義・演習はF1、F2クラスに分けて行うが進度に差が無いようにする。試験、演習は同じ問題で行う。

【その他】